



むかし にんじゃ  
**昔の忍者はどんなことができたの**

みず なか すぐた  
**水の中にかくれたり、けむりで姿をかくす**

にんじゃ くんれん ひと かんたん  
忍者とは、訓練することによって、ふつうの人ではできないようなことが、簡単にできるような人のことをいいます。

ここでは、敵からにげる方法や、かくれ方を例にあげてみましょう。

すい じゅつ みず なか みず うえ ほうほう  
「水とんの術」は、水の中にかくれたり、水の上をにげたりする方法です。

よく知られているものでは、水中で竹のつつを口にくわえて息をしながら、長い間じつとしていたり、もぐりながら泳いだりします。竹のつつがないときは、水の上に大きめのごみをうかせて、敵に見つからないよう、そのかげにかくれながら泳ぎます。「水ぐも」というものに乗って、武器がしこんである「かい」でこぎながら、にげることもあります。

か じゅつ かやく すぐた み  
「火とんの術」は、けむりのようなえんまくをはったり、火薬をばくはつさせて姿を見せないようにしながら、にげます。

てんき き りよう すぐた  
**天気や木を利用して、姿をかくす**

てん じゅつ てんき か  
「天とんの術」= 天気のきよくたんな変わり  
目や、日光や風などを利用して、にげます。

もく じゅつ はんたい ほうこう きぎ  
「木とんの術」= にげる反対の方向に木切れ  
を投げたりして、敵の目をだまします。

このほかにも、手裏剣やくさりがまなどを  
つかって、敵に立ち向かいました。また、忍者  
やしき へんしき  
屋敷には、敵をだますしかけがたくさんつく  
てありました。(監修・田代 脩)

